



The United Nations
University



ゼロエミッションシンポジウム2008

「ゼロエミッションと生態系」

— ゼロエミッション活動による生物多様性の保全維持 —

日時 2008年11月26日(水) 9:30-17:30

場所 UNハウス ウ・タント国際会議場

東京都渋谷区神宮前5丁目53-70

主催： 国際連合大学、国際連合大学ゼロエミッションフォーラム

後援： 環境省、経済産業省、農林水産省、日本放送協会(NHK)、日本経済新聞社、日経BP社、
読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、企業と生物多様性イニシアティブ、生物多様性条約
第10回締約国会議支援実行委員会、コンサベーション・インターナショナル(順不同 申請中)

対象： 一般の皆様、企業経営者、環境部門担当、経営企画・設計・生産部門、地方自治体、
環境NGO・NPO 研究機関、教育関係の方々

規模： 約300名

参加費： 無料

開催趣旨

21世紀は環境の世紀と言われ、2005年2月に京都議定書が発効し、地球温暖化問題への国際的取組の第一歩を踏み出しました。そして持続可能な社会形成に欠かせない視点としてゼロエミッションと生物多様性が浮かび上がってきています。

これまで、国際連合大学ゼロエミッションフォーラムでは、「気候変動とゼロエミッション」(2005年京都議定書発効記念講演会)を手始めに、昨年は「地球温暖化防止と低炭素社会—IPCC4次報告と不都合な真実」(2007年春)「地球温暖化対策—展望と世界の先進事例」(2007年秋)と地球温暖化問題を主なテーマとして取り上げ、シンポジウムをシリーズ開催してきました。

この秋は、地球温暖化対応と密接に関係するゼロエミッション、そしてもう一歩進め、生態系(生物多様性)とを併せたシンポジウムを開催します。

市民生活や企業の事業活動は生態系サービス(食糧・木材・水・酸素の供給と空気の浄化・豊かな土壌・医薬品などの形で人が生物から受ける様々な恩恵)のもとに成り立ち、我々はこの密接な関係がある生物多様性について学び、認識し、保全実践へと行動を移してゆきたいと思います。プログラムのとおり、講師の皆様から総合的な地球環境保護のあり方、先進的な取り組み事例の報告をしていただきます。

生物多様性基本法が今年5月に成立し、2010年には名古屋市において生物多様性条約第10回締約国会議が開催されます。

皆様の積極的な参加を期待しております。

ゼロエミッションシンポジウム2008 プログラム

ゼロエミッションと生態系

09:30 開会の辞 藤村 宏幸 (国際連合大学ZEF 会長)

09:35 歓迎の辞 Konrad Osterwalder (コンラッド・オスターヴァルダー) 国際連合大学 学長

特別講演

09:40 「生物多様性に関する日本の戦略」

黒田 大三郎 (環境省 自然環境局 局長)

基調講演

10:25 「ゼロエミッションと里山…循環、持続可能社会をめざして」

武内 和彦 (国際連合大学 副学長)

11:10 「世界における生物多様性の状況」

日比 保史 (コンサベーション・インターナショナル 日本代表)

11:55-13:00 昼 休 み

企業の係わり

13:00 「ゼロエミッションと生物多様性…事業から見た係わり」

谷 達雄 (国際連合大学ZEF運営委員 (株)リコー 理事 技師長 社会環境本部長)

13:45 「生物多様性への事業戦略」

塚田 高明 (鹿島建設株式会社 執行役員 環境本部長)

14:30-14:45 休憩

パネルディスカッション

14:45 「市民生活・事業活動と生物多様性」

司 会: 鈴木基之 ZEF学界ネットワーク代表・理事、中央環境審議会会長

パネリスト: あん・まくどなど 国連大高等研所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長

谷口正次 ZEF産業界代表・理事 資源ジャーナリスト

塚田高明 鹿島建設株式会社 執行役員 環境本部長

徳丸久衛 環境省自然環境局 生物多様性地球戦略企画室長

日比保之 コンサベーション・インターナショナル 日本代表

舟山康江 参議院議員

増田達雄 名古屋市環境局生物多様性企画室長

(パネリスト—お名前はあいうえお順)

17:30 終了

(都合により、プログラム内容を変更する場合がございます。予めご了承ください。)